

当院採用の副腎皮質ステロイド注射薬一覧

※糖質コルチコイド作用（抗炎症効果）、鉱質コルチコイド作用（電解質作用）はヒドロコルチゾンの効果を1としたときの力価比で記載しています。

★適応症や用法・用量など最終確認は添付文書でお願いします★

分類	一般名	製品名	規格	1V (A) あたりの薬価 (円)	性状 (添付溶解液)	力価比		概算同等用量 (mg)	特徴、注意点等	
						※糖質 コルチコイド (抗炎症効果)	※鉱質 コルチコイド (電解質作用)			
1群	ヒドロコルチゾン コハク酸エステル ナトリウム	ソル・コーテフ	注射用	100mg	302	凍結乾燥 (添付溶解液有)	1	1	20	・内因性の副腎皮質ステロイドと同等 ・高用量を長期使用する場合、鉱質コルチコイド作用による高Na血症発現のおそれあり
			静注用	500mg	1,236					
	ヒドロコルチゾン リン酸エステル ナトリウム	水溶性ヒドロコトロン 注射液	100mg	365	液剤	1	1	20	・内因性の副腎皮質ステロイドと同等 ・㊟外科的ショックおよびショック様状態における救急、または術中・術後のショック	
2群	プレドニゾン コハク酸エステル ナトリウム	水溶性プレドニン	20mg	189	凍結乾燥 (添付溶解液無)	4	0.8	5	・ヒドロコルチゾンと比較すると鉱質コルチコイド作用が弱い	
3群	メチルプレドニゾン コハク酸エステル ナトリウム	ソル・メドロール静注用	40mg	360	凍結乾燥 (添付溶解液有)	5	<0.01	4	・鉱質コルチコイド作用が弱いためパルス療法など大量投与可能 ・40mg製剤は添加物に乳糖水和物を含むため、乳糖や乳製品アレルギーの患者には禁忌	
			125mg	725						
			500mg	2,174						
			1000mg	3,984						
	トリアムシノロン アセトニド	ケナコルト-A 筋注用関節腔内用水懸注	40mg	815	液剤 (懸濁)	5	<0.01	4	・局所で長時間効果持続、㊟筋注、関節腔内注射のみ ・静脈内注射、脊髄腔内注射、硬膜外注射、眼科用に使用不可 ・筋注時に萎縮による皮膚陥没がおこることがあるため、注射部位を揉まない	
4群	デキサメタゾン リン酸エステル ナトリウム	デキサート注射液	1.65mg	57	液剤	25	<0.01	0.75	・抗悪性腫瘍薬（シスプラチンなど）投与に伴う消化器症状（悪心・嘔吐）の適応あり、CYP3A4で代謝されるためアプレビタント（イメンド）を併用する際は投与量に注意	
			6.6mg	156						
	デキサメタゾン パルミチン酸エステル	リメタゾン静注	2.5mg	1,971	液剤	25	<0.01	0.75	・ターゲット製剤であり、炎症局所に集積する。 ・㊟関節リウマチ	
	ベタメタゾン リン酸エステル ナトリウム	リンデロン注	0.4% 4mg	291	液剤	25	<0.01	0.75	・当院採用薬は4mgと20mgで濃度が異なる ・0.4% 4mg製剤は母体投与による新生児呼吸窮迫症候群の発症抑制の適応あり ・2%製剤は出血性ショックにおける救急、又は術中・術後のショックの適応あり	
2% 20mg	1,380									
	ベタメタゾン酢酸エステル・ベタメタゾンリン酸エステルナトリウム	リンデロン懸濁注	2.5mg	211	液剤 (懸濁)	25	<0.01	0.75	・速攻性成分と持続性成分の配合剤 ・静脈内注射、脊髄腔内注射、硬膜外注射、眼科用に使用不可	

※コハク酸エステル製剤は、喘息発作を悪化させることがあるため喘息患者（特にアスピリン喘息の既往がある患者）への投与可否に注意が必要